



地域のキャラバン生徒達は認知症

45歳、4児を子育て中の父親です。常日頃、子ども達には蓄積した記憶を糧に、失敗を恐れず未来に向かつて進んでほしいと考えています。

9月21日はWHO(世界保健機関)が制定した「世界アルツハイマーデー」です。この日を中心に9月は「世界アルツハイマー月間」といふことで、世界中で認知症への啓発活動が行われています。

先日、わが母校である原中でも1年生を対象に認知症サポーター養成講座が開かれ、私も認知症サポーターキャラバン・メイト(講師役)として参加しました。認知症について講義を進めていく中、私は、いわゆる介護専門職ではありませんので、チームオレンジの仲間でもある

必要なのを考え、生徒達はグループワークを行い、そうした症状のある人に会ったことがあるかを

もって、時間は変化する「相対時間」という概念を生み出しました。さらなる文明を発展させた現代、ミクロ世界の領域において、「相対時間」の概念をもつても計算の辻褄が合わないになりました。現在では、イタリヤの論理物理学者カルロ・ロヴェッリが「時間

は存在しない」と主張しています。文明の発展とともに「時間」の概念は変わってきました。しかし、宇宙レベルまで空間範囲を広げると絶対時間では計算の辻褄(つじま)が合いません。アルベルト・アインシュタインは特殊相対性理論を

「絶対時間」という概念を生み出した。私達人間は、その功績であるニュートン力学を基礎として文明を発展させてきました。しかし、宇宙レベルまで空間範囲を広げると絶対時間では計算の辻褄(つじま)が合いません。アルベルト・アインシュタインは特殊相対性理論を

### 時間と記憶



最新作の羽を広げと大さん=大藤訪

ら、短期記憶の喪失ゆえに再度、食事の催促を受けることがあります。一緒に食事をしていた家族からすれば、喪失していった時間を喪失した気持ちになることでしょうか。やりきれない感情の行き場とともに、消えた時間。私達の脳は「時間」というものを、どのように認識している

の概念はどうでしょうか。記憶と記憶を思い巡らしながら結ぶ過去は「回想的記憶」と定義されています。それに対して未来は「展望的記憶」と定義されています。自分の中にある記憶と記憶を結び、遠くを見渡した時に見えるもの。それが「未来」です。物理的に同じ空間

で同じ時間を一緒に過ごしていても刻まれる記憶は人それぞれ違います。記憶も時間も個人的なもの、未来は個人の中にある記憶でしか描けません。未来は自分自身で描くしかないのです。もし、未来が描けないのであれば、新しい記憶を取り込む。本を読ん

### 飯田理一朗

だり、人の話を聞いたり、いろんな場所に出掛けたら。記憶を積み重ねて、自分の未来を描いてください。そう生徒達にメッセージを贈りました。

そして、今回の認知症サポーター養成講座もまた、私達チームオレンジのメンバーが記憶と記憶を結んで展望した未来です。と続けました。認知症の方や家族が、この地域で自分らしく安心して暮らしてほしい。地域に認知症の正しい理解や見守る目、思いやりの心を持ったサポーターがあってほしい。それを私達は行動で表現しました。生徒達には、この時間を記憶し、共感してくれたならば、帰宅後、家族に認知症サポーター養成講座のことを話してほしい。ゆくゆく

は自分の子ども達にも語ってもらいたい。そのように行動してければ、私達の願った未来は実現に向けて近づきます。とも話しました。

(原町中)

墓石・各種石材工事一式・設計施工  
 子孫に伝えたい手作りの良き

**石神匠**

沼津市井出1755-1 TEL.966-1151

「スマートフェンシング」など。パラスポーツでは、重度障害者ために考案された「ロップ生まれのスポーツ」ボッチャや武道体験では、弓体験を弓道場で1受け付け、武道場では、午前中に剣道体験、午後から合気道、なぎなたの各目。また、握力、体起こし、反復横び起こし、シャトルラン6分間歩行などの